

# オレゴン便り

発行: 中野壘紀子  
2013年  
11月

オレゴンは、11月に入り、雨や曇りの日が続いています。日本文化と会話の授業で、日本の梅雨を紹介した際、「日本の梅雨は6月から7月までですが、オレゴンの雨の季節は何月から何月までですか。」と日本語で質問をしました。すると、「10月から3月までです。」「10月から5月までです。」とそれぞれ自分の意見を日本語で述べてくれました。去年、私がオレゴンで初めて迎えた秋は、10月上旬までは毎日が快晴または晴れ、そして10月中旬から12月後半までは、ほぼ毎日が雨が曇りで、青空を見ない日が続いていました。しかし、今年は9月に雨が多く、その代わりなのか10月は晴れの日が多く、オレゴンの美しい秋晴れを楽しむことができました。そして11月に入り、とうとう本来のオレゴンの秋「雨季」が始まりました。



曇り空の下に広がる Vineyard

私は個人的に、雨より晴れの方が好きです。(もちろん、雨がもたらす恩恵を忘れてはいけないということは分かっていますが。)日本にてるてる坊主を作って窓際に飾り、晴れを願う風習があるのは、多くの日本人が私と同じように晴れの方が好きだからなのではないかと思います。「日本の梅雨とオレゴンの雨季」についての授業を今月初めに行った際、「雨の季節が好きですか。」と聞いてみました。この質問は別の生徒たちにも以前したことがあります。結果は前回と同様、半分か半分を超える生徒が、「はい、好きです。」と答えました。この質問を、日本で小学生や中学生にしたら、私の勝手な予想ですが、半分以上が「嫌いです。」と答えるのではないのでしょうか。このため、オレゴンの多くの子どもたちが、「雨が好き」と答えたときは驚きました。授業では、てるてる坊主の作り方を紹介し、一人ひとり作って窓際に飾ったのですが、雨が好きだから逆さまに飾るという生徒もいました。また、ちょうどハロウィンの直後にこの授業を行ったため、てるてる坊主が、ハロウィンでよく見られるお化けの飾りにとても似ていることから、最初に写真を見せたときは、「ハロウィン・ゴースト」と言う声がたくさん聞かれました。



てるてる坊主を作りました



てるてる坊主に似たハロウィンの飾り

## 10月31日 ハロウィン

昨年のオレゴン便りでも、アメリカのハロウィンを紹介しましたが、今年の様子も報告したいと思います。まずは、派遣校での様子からです。前日のアドバイザーの時間(日本でいうホームルームの時間)を使い、

各教室をハロウィン用に子どもたちが決めたテーマに沿って飾り付けました。当日、生徒たちは午前中、通常授業を受け、ランチタイムにコスチュームに着替えました。先生方もコスチュームを着ます。午後、いよいよパーティーの始まりです。生徒たちは各教室を順番に回り、私たち教師も、それぞれの教室をまわって、どこが一番怖かったかなど審査をしました。マリオネットをテーマにした教室、「本当は怖いグリム童話」をテーマにした教室、お化けカフェなど、どのクラスも大変工夫されていて、短時間でこれだけのものを作り上げることのできる彼らには、いつも感心させられます。



その後は、クッキーやケーキなどを食べながら、怖い映画を見たり、ゲームをしたりしていました。最後に、コスチュームコンテストの入賞者が発表されました。今年の衣装は、カエルやミツバチなどのかわいいものから日本の幽霊といった怖いものまで様々でした。

夕方は、マクミンビルのダウンタウンで行われたハロウィンのイベントを見に行きました。沿道の店の店員さんたちに Trick or treat. をして回る子どもたちは、みんなとても嬉しそうでした。かわいいコスチュームを着た子どもたちや、飼い主とおそろいの衣装を着た犬などを見てい

るだけで楽しかったです。

その後、同僚の先生の家で、Trick or treat. のキャンディー配りをしました。去年は、ホストシスターに誘われ、彼女と一緒に住宅街で Trick or treat. をして何軒か回ったのですが、今年は、家でお菓子を配る方を体験することができました。やって来る子どもたちがとてもかわいくて、お菓子を配るのはとても楽しく、アメリカならではの貴重な経験ができました。



～各クラスのハロウィンの日の教室の様子～



ホストシスターは、私の浴衣を着て「日本の幽霊」に。私は、アメリカの西部開拓時代をイメージして「カウガール」(今年、ロデオのイベントで見たカウボーイの女性版)になりました。この日は、生徒だけではなく、校長先生を始め、先生方もコスチュームを着ていました。





本場 Trick or treat.の様子



本格的なハロウィンの飾り付けがされた家を住宅街に発見！

## おにぎりの紹介

ハロウィンの話がまだ続きます。ホームステイ先が所有する Vineyard（ワイン用のブドウ園）のブドウを出荷しているワイナリーのハロウィンパーティーに招待され、ホストファミリーと行ってきました。このパーティーは、ポットラック（食べ物持ち寄り）形式だったため、ホストファミリーは、アップルクリスプとレモンバーを、そして私は、おにぎり4合分を作って持っていきました。会場で食べ物を置くテーブルにおにぎりの乗った皿を置くと、「Sushi」と言ってアメリカ人親子が近づいてきました。その後も、「これは寿司か？」と聞かれることが多く、アメリカ人にとって、「おにぎり」が身近でないということが改めて分かりました。

昨年12月に日本語初級1の日本文化の授業でおにぎりを紹介し、夏休みの日本語サマーキャンプではおにぎり作りを行いました。このため、今や派遣校の生徒たちにとっておにぎりは、「寿司」ではなく「おにぎり」と認識されています。しかし、一般のアメリカ人はおにぎりを知らないため、今年も11月中旬に、日本語初級1の生徒に日本文化の授業で紹介しました。

アメリカでは、遠足や校外学習の際には、「Bring a sack lunch.」と事前に配られる紙に書いてあります。「サックランチを持ってきてください」ということなのですが、サックランチとは、小さな紙袋に食べ物を入れたジップロックなどのような袋を入れ、食べ終わると紙袋ごと捨てられるもので、アメリカ版のお弁当です。

おにぎりを紹介する導入として、「皆さんは、サックランチを持ってくるようにと言われたら、何を持ってきますか」と英語で質問したところ、生徒たちは「サンドイッチとバナナとポテトチップス」「ピーナッツバター&ジェリーサンドイッチとりんご」「レフトオーバー（残り物）とミニキャロットとジュース」などと答えてくれました。ちなみに、「ピーナッツバター&ジェリーサンドイッチ」とは、日本のおにぎりのような存在で、食パンの片面に砂糖などの入っていないピーナッツバターを塗り、もう片面にブドウなどのジャムを塗ったサンドイッチで、子どもたちに人気の、まさにサックランチの定番です。

そのあと、「では、日本の子どもたちのサックランチの定番を紹介します」と「おにぎり」を紹介しました。最初に写真を見た生徒たちの反応はやはり、「Sushi!!!」でした。まず、寿司とおにぎりの違いの説明から始め、遠足で小学生がおにぎりを食べている写真や運動会のおにぎり弁当、コンビニのおにぎり売り場などを紹介しました。コンビニのおにぎりの包装の開け方もビデオを使って説明しました。

次に、おにぎりの中に入れる具材、ご飯の炊き方とおにぎりの作り方を



写真やビデオを用いて紹介しました。そして最後に、私が事前に握っておいた三角おにぎりを一人ひとりに渡し、食べてもらいました。実際に触って初めて、三角という形のイメージがつかめたようです。また、あまりにもおいしかったようで、2個目が欲しいとたくさんの生徒に言われました。



この1週間後、生徒たち自ら、おにぎりを握りました。具材には、ツナマヨ、おかか、梅干しを用意し、まずは、私のデモンストレーションを見せました。どの子も真剣に作り方を見つめていました。そして、いよいよ、おにぎり作りの体験です。ツナマヨが大人気ですぐに売り切れましたが、おかかも最後にはほとんどなくなっていました。また、梅干しがおいしいと言って梅干しおにぎりを作ったり、塩おにぎりもいいと具材は何も入れなかったりする子どももいました。

よく海外では、真っ黒な海苔に抵抗感があり、嫌いな人が

たくさんいると聞いていましたが、私の生徒たちには大人気で、20人中、海苔を巻かないで食べたのは2人でした。また、食べた後、おにぎりが好きではないと言った子どももたった2人で、大部分の生徒が、大好きだと言ってくれ、とても嬉しく思いました。

授業後、2～3人の生徒が「おにぎり、ありがとう」と英語や日本語で言ってくれました。また、「家でお母さんに作り方を教えてあげて、一緒に作る。今度、サックランチに持ってくる。」という生徒もいました。休み時には、他学年の児童生徒 10 人程が次々に、「ご飯が余っていたら、自分もおにぎりを作りたい」とやってきました。

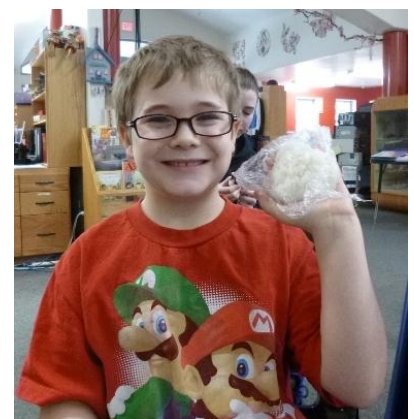
このように、日本食を紹介し、日本に対して良いイメージをもってくれたらと常々思っています。また、日本食だけではなく、いろいろな日本文化を紹介することにより、アメリカの子どもたちが異文化を知り、違いを受け入れ、世界に目を向ける機会を与えていきたいです。



ラップを使って作りました。



おにぎり大好き！！



こちらは海苔なしの塩おにぎり